

令和 5 年度 第 15 回沖縄県がん診療連携協議会 ベンチマーク部会 議事要旨

開催日時：令和 6 年 1 月 23 日（火）16:00～17:00

場 所：Zoom を利用した Web 会議

出 席：7 名

天野慎介(全国がん患者団体連合会理事長)、有賀拓郎(琉球大学病院診療情報管理センター副センター長)、伊佐奈々(琉球大学病院がんセンター診療情報管理士)、埴岡健一(国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科教授)、東尚弘(東京大学公衆衛生学健康医療政策学教授)、平田哲生(琉球大学病院診療情報管理センター長)、増田昌人(琉球大学病院がんセンター長)

欠 席：3 名

新垣真太郎（沖縄県保健医療部健康長寿課がん対策班主任）、井岡亜希子（まるレディースクリニック院長）、伊藤ゆり（大阪医科大学研究支援センター医療統計室室長准教授）

陪 席：1 名

西佐和子（琉大病院がんセンター事務）

【報告事項】

1. 令和 5 年度 第 14 回ベンチマーク部会議事要旨について

増田部会長より、資料 1 に基づき、ベンチマーク部会の議事要旨について説明があった。

2. その他

特になし。

【協議事項】

増田部会長より、アンケート調査会社からの「属性の細かさに対する意見」について説明があった。

1. 前文について

- 調査目的に、沖縄県がん対策推進計画の評価のために調査を行っていることを加える。
- 調査対象に「職種の割り振り数」を追加する。

2. 医師の分類（在宅医）をどうするか（問 3）

5. 医師のみに限った方がよいか。細分化して外科医、放射線治療医のみに答えさせてよ

いか（問 12・13・14）

- 外科だけではなく内科の立場でも回答ができる。医師の専門はサブ解析の時に必要であるため、選択肢を内科系・外科系、もしくは手術・放射線治療・薬物療法のいずれかに変更する。

3. 勤務先を明らかにしてよいか（問 7）

- 調査結果を各病院にフィードバックする場合、母数が少なくなる可能性がある。例えば、がん診療連携拠点病院全体を母集団としてフィードバックするやり方もあるのではないか。
- 選択肢を、「がん診療拠点病院」「がん診療病院」「それ以外」の 3 抹に変更する。

4. がん治療に携わっていない場合に回答を終了してよいか（問 8）

- がん治療に携わっていない回答者に調査を行う必要性がないため、協議の上、回答を終了することになった。

6. 「支援してくれましたか」もしくは「支援してくれますか」どちらがよいか（問 38）

- 「支援してくれますか」に変更する。

7. 数字の刻み方を 2 種類にしているが、それでよいか

- 特に意見なし。

8. 上記以外の質問内容について

問 5. あなたの年齢をお選びください。

- 選択肢を 10 歳刻みにするため、「5. 60 歳～69 歳」「6. 70 歳」に変更する。

9. 次回部会開催日程について

事務局で検討の上、日程調整をさせていただきます。協議会（2/2）の直前、もしくは協議会後の開催を考えています。

10. その他

年度内に調査を終えるようにしたいと考えておりますので、ご協力をお願いします。

令和5年度 第16回沖縄県がん診療連携協議会 ベンチマーク部会 議事要旨

開催日時：令和6年3月5日（火）15:00～16:00

場 所：Zoomを利用したWeb会議

出 席：7名

新垣真太郎（沖縄県保健医療部健康長寿課がん対策班主任）、伊佐奈々（琉球大学病院がんセンター診療情報管理士）、伊藤ゆり（大阪医科大学研究支援センター医療統計室室長准教授）、埴岡健一（国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科教授）、東尚弘（東京大学公衆衛生学健康医療政策学教授）、平田哲生（琉球大学病院診療情報管理センター長）、増田昌人（琉球大学病院がんセンター長）

欠 席：3名

天野慎介（全国がん患者団体連合会理事長）、有賀拓郎（琉球大学病院診療情報管理センター副センター長）、井岡亜希子（まるレディースクリニック院長）

陪 席：1名

西佐和子（琉大病院がんセンター事務）

【報告事項】

1. 令和5年度 第15回ベンチマーク部会議事要旨について

増田部会長より、資料1に基づき、ベンチマーク部会の議事要旨について説明があった。

2. 第2回医療者調査の進捗について

増田部会長より、資料2に基づき、第2回医療者調査の進捗について報告があった。

3. 第4次沖縄県がん対策推進計画（協議会案）における所掌分担について

増田部会長より、資料3に基づき、協議会における活動についての基本方針と各部会の所掌分担について報告があった。

4. その他

特になし。

【協議事項】

1. 沖縄県がん診療連携協議会部会の申合せの確認について

増田部会長より、資料4に基づき、部会の申合せについて確認が行われた。協議の上、修正しないことになった。

2. ロジックモデルを用いての次年度の活動計画について

増田部会長より、追加資料に基づき、協議会でPDCAサイクルをまわすために専門部会で行うことについて説明があった。

3. 各部会におけるロジックモデルを用いての次年度の活動計画をどのように行うか

- ベンチマーク部会としては各専門部会にフルロジックモデルを提供し、進捗管理と評価改善を行っていただく。
- また、フルロジックモデルとは別に、評価シートや進捗管理報告書のようなものを提供する。雑務ではなく思考に集中できるようなシートを作る必要がある。専門部会の負担をなるべく減らすために、書くといった単純作業は事務局が行う。

4. 当部会の所掌分担領域の進捗・評価について

- ベンチマーク部会の所掌分担は「がん登録の利活用の推進」だけになるが、協議会が直轄した部分（研究の推進、人材育成の強化、がん教育及びがんに関する知識の普及啓発と患者・市民参画の推進）も含めたフルロジックモデルで進捗管理と評価改善を行う。
- 「市民参画の推進」について、具体的な施策をディスカッションすることが必要である。県民対象の調査に当部会から質問項目を追加できないか調べる。東京都は都民調査、施設調査、患者調査の3つを使っており、今後の参考にする。

5. 次回の開催日程について

- 6月開催予定（2024年から3月、6月、9月、12月に開催）
- 増田部会長より、専門部会で何か問題が出たりする場合は、ベンチマーク部会でディスカッションをして、指標作りや指標の見せ方、施策作りを各専門部会にアドバイスしなければならないと思います。年四回開催というわけにはいかないと思われますので、開催の間隔をもう少し短くお願いしないといけないと思います。

6. その他

- 増田部会長より、次回部会の協議事項について、提案があった。
- 第4次沖縄県がん対策推進計画（協議会案）と県計画の指標をどういうふうに測定して、協議会運営サイト「うちな～がんネットがんじゅう」の場で見せていくのか。
 - ロジックモデルはあるが、指標が決められていない部分の指標をどうするか。
 - 現在出せる指標の値を評価する。